

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業改良普及センター

「稲作情報（第14号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第14号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。この情報はホームページ（以下URL）にも随時公開しています
<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00323270/index.html>

杵島農業改良普及センター

検索

1. 気象概況

アメダス観測値（白石）

月	半月	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R3 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R3 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R3 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R3 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R3 (hr)	平年比 (%)
8月	1	28.3	29.3	1.0	33.4	34.8	1.4	24.5	25.7	1.2	29.3	59.5	203	35.5	38.9	110
	2	28.2	28.2	0.0	33.3	33.3	0.0	24.5	24.2	-0.3	30.0	90.5	302	34.7	31.9	92
	3	28.0			33.0			24.4			32.8			32.8		
	4	27.6			32.6			24.1			35.0			31.4		
	5	27.1			32.2			23.5			37.9			30.1		
	6	26.4			31.5			22.8			48.6			34.3		

○8月2半月の平均気温は平年並みで推移した。また、断続的な降雨により寡照となった。

≪福岡管区気象台の1か月天気予報（8月12日発表）（予報期間 8月14日から9月13日まで）

前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は並か少ないでしょう。向こう1ヶ月の気温は、ほぼ平年並の見込みです。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：8月11日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概 要
夢しずく 6/12 移植 武雄市橘町	本年値					出穂期は8月10日となり 平年に比べて2日程度早い。
さがびより 6/19移植 武雄市橘町	本年値	75.1	410	12.7	36.9	<ul style="list-style-type: none"> 草丈および茎数は平年並み。 主稈出葉数は平年より0.1葉少ない。 葉色は平年より濃い。 幼穂長 3~5mm ※幼穂形成始期8月8日頃
	平年値	75.0	414	12.8	35.1	
	平年比	100	99	-0.1	+1.8	

※夢しずくおよびさがびよりの平年値はH21~R2の平均値。 耕種概要は稲作情報第8号参照

2) ウンカ類

- ・本年は、平年に比べ20日早い梅雨入りとなり、5月中旬から飛来を確認され、5月11日、7月4日、7月8～9日、12～13日にトビイロウンカの飛来が確認されている。

8月の気温は平年より高いと予想されており、今後増殖する恐れがあるため、本田防除の適切な実施が極めて重要である。

図1 トビイロウンカにおける各世代の発生予測（稲作情報第12号参照）を参考に、圃場ごとの発生状況を確認したうえで防除対策を徹底する。

なお、トビイロウンカにおける各世代の発生予測は、その後の気温等により若干変わるので、最新データは、佐賀県農業技術防除センターHP等を参照する。

《参考 ウンカ類の25株払い落とし調査結果》

調査日	ゼジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメビウンカ		備考
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	
8月11日							
6月12日移植	0	0	0	0	1	0	夢しずく 情報田 ※ゼクサロン剤
6月19日移植	1	0	0	0	1	1	さがびより情報田 ※ゼクサロン剤
6月19日移植	0	0	0	0	1	0	さがびより(武雄市橋町) ※ゼクサロン剤

3) コブノメイガ

- ・今年、6月3～4日頃、7月3～4日頃に飛来があった。本年は、前年に比べて飛来量は少ないものの、断続的に飛来がみられたことから、飛来波ごとの幼虫の出現時期は異なると予想される。

このため、1回の散布で全ての飛来波のコブノメイガを完全に防除することは困難であるが、トビイロウンカの発生状況も考慮して効率的かつ効果的な防除ができる時期に実施する。

- ・コブノメイガの防除適期は、発蛾最盛期の7日後（幼虫ふ化揃い期）である。



コブノメイガによる食害

4) 斑点米カメムシ

- ・「夢しずく」は出穂期を迎えており、斑点米カメムシ類を中心とした乳熟期（穂揃い後10日目頃）の防除を徹底して、斑点米カメムシの被害防止を図る。

発生が多い圃場では穂揃い期（出穂後5日目頃）と乳熟期の2回防除を実施する。

★多発生の目安 ⇒ 2.0回のすくいとり調査でカメムシが5頭以上の場合
(穂揃期～乳熟期)

- ・出穂10日前までの畦畔除草は、耕種的防除の観点から効果的である。カメムシはイネ科雑草を好むことから畦畔だけでなく圃場内に発生している雑草の除草も併せて行うよう努める。

畦畔を100m歩いて、カメムシが3頭いたら、要注意である。



エノコログサやヒエが多発している畦畔はカメムシの住処となっている

5) 紋枯病

- ・ 幼穂形成期以降は、各品種とも病気に対する抵抗力が弱まる。今後気温が高くなることから、紋枯病が一気に進展する可能性があるため発生には十分注意する。
- ・ 病斑が上位葉の葉鞘に進展する前の防除が効果的である。
(液剤、粉剤の場合は出穂10日～20日前の防除を目安とする)



紋枯病